

**平成 30 年度 指定管理者
事業評価 報告書**

(よこはま動物園、野毛山動物園・野毛山公園及び
金沢動物園・金沢自然公園)

令和元年 11 月

横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会

1 評価対象

対象施設	指定管理者	指定期間
よこはま動物園	公益財団法人 横浜市緑の協会	H28.4～R8.3
野毛山動物園及び野毛山公園		
金沢動物園及び金沢自然公園		

2 評価方法

評価は、令和元年7月に調査員（環境創造局動物園課職員）と評点員（環境創造局公園緑地管理課及び公園緑地維持課職員）が基本協定書、事業計画書、仕様書、維持管理基本水準書、年度実施協定書及び年度実施計画書等に基づき書類の審査、ヒアリング、現地確認等を実施した結果を本委員会で審査しました。

また、指定管理者の取組姿勢について、本委員会で直接、指定管理者にヒアリングを実施し、採点を行いました。そのうえで、調査員・評点員の採点及び本委員会での採点を合わせ、評価を決定しました。

3 事業評価経過

(1) 調査員・評点員による採点（ヒアリング・現地調査含）

よこはま動物園 : 令和元年7月19日（金）・7月23日（火）

野毛山動物園 : 令和元年7月18日（木）

金沢動物園 : 令和元年7月17日（水）・7月22日（月）

協会本部 : 令和元年7月25日（木）

(2) 横浜市立動物園等指定管理者選定評価委員会

第1回 令和元年6月5日（水）

視察（金沢動物園）、平成30年度事業報告等

第2回 令和元年9月25日（水）

視察（野毛山動物園）、調査員・評点員による採点結果検討

指定管理者へのヒアリング、評価審査

第3回 令和元年11月13日（水）

視察（よこはま動物園ズーラシア）、評価確定

4 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 名簿（敬称略）

委員長：小宮 輝之〔元恩賜上野動物園長〕

委員：浅井 紀代子〔税理士、さくら共同会計事務所代表社員〕

委員：齊藤 毅憲〔横浜市立大学名誉教授〕

委員：佐渡友 陽一〔帝京科学大学講師、市民ZOOネットワーク代表理事〕

委員：間曾 さちこ〔株式会社かなん代表、元財団法人自然環境研究センター上席研究員〕

5 評価結果

採点点数	全体 (%)	評価
455.5 点 / 600 点	75.9%	B

【参考】評価に関する点数の考え方については、次のとおり

S評価	90%～100% (概ね 540 点～600 点)	極めて優秀 (要求水準を大きく上回る)
A評価	80%～89% (概ね 480 点～539 点)	優秀 (要求水準を上回る)
B評価	60%～79% (概ね 360 点～479 点)	良好 (要求水準の下限を保持)
C評価	59%～ (概ね 359 点以下) 不良	不良 (要求水準の下限を満たさない)

6 全体講評

平成 30 年度は、横浜市立動物園における指定管理者制度の第 3 期目となり、10 年間の指定管理期間の 3 年目でした。今回の事業評価の結果、優秀な取組もあり、全体としては良好な管理運営が行われていたものと認められます。

今期から、3つの目標（入園者数、国際的な繁殖計画への参画・連携、環境学習）を掲げて業務に取り組んでいます。30 年度の入園者数については、夏場の異常気象などの影響もあり目標に対して大幅な減でした。近年は異常気象が頻発するようになってきていることから、人の心を掴む施策等を練ることで、天候の影響があっても一定程度の集客が確保できるよう、リピーター確保などのアイデアを指定管理者には期待します。国際的な繁殖計画への参画・連携については、目標からわずかに下回る結果となりました。これまでの参画・連携状況や過去に行われたウガンダ事業といった海外連携の実績を踏まえ、協会としての能力を十二分に発揮できるよう、3園の横断的な総合調整業務の取組強化を期待します。環境学習については、目標を上回る件数のプログラムの改善に取り組んでいました。

管理運営全般では、一括発注によるコスト軽減や里山ガーデンフェスタとの連携・協力などにも取り組みながら、安定した執行が図られています。維持管理業務では、引き続き来園者が快適、安全に利用できるよう適切な維持管理を求めることに加え、展示場の魅力アップなどを引き続き行い、潜在的寄附者ともなり得るリピーター確保へ戦略的に取り組むことを期待します。

人材育成については、今後の動物園運営の核となる人材を育成するための体系的な研修計画を策定・実施することを求めます。

飼育管理全般について、動物福祉の観点から実施した様々な取組については昨年度に引き続き評価できます。また、国内では前例のない腹腔鏡を用いた人工授精の試みや、歴史的資料の分析、企業と連携した新たな研究分野への取組について、今後の発展に大いに期待します。

労災については、昨年度に比べ減りましたが、動物の逸走の複数件発生や、借り受け動物を誤って他園へ貸し出すなど管理上のミスが発生しており、引き続き再発防止を強く求めます。

今回、昨年度の事業評価や来園者アンケートを踏まえて協会内部で課題を分析し、自主事業へ反映する動きや、教育プログラムの評価を新たな評価指標にするなどの積極的な姿勢が見受けられましたが、動物園の根幹業務である飼育管理分野にも同様の積極的な姿勢を望みます。今後も、課題の適切な分析と対応を継続しつつ、10 年間の指定管理期間という長期的な視点のもと、残る 7 年で達成すべき目標やプライオリティを明確にし、戦略的に公益を実現していくことを期待します。

7 委員会所見

1 飼育・繁殖に対する取組

種の保存について、国際的な繁殖計画への参画・連携については、目標（10種）を下回る9種の参画・連携に留まりましたが、テングザル、ゴールデンターキン、キバラクモノスガメなどの希少種の繁殖に成功しました。今後は、これまでの協会としての能力を十二分に発揮できるよう、3園の横断的な総合調整業務の取組を強化し、国際的な繁殖計画も含めた動物収集に期待します。

飼育管理について、特にゾウで金沢・ズーラシア両園において展示場の床材について更なる工夫を重ね、飼育環境の改善に取り組んでいました。また、国内では前例がない腹腔鏡を用いたチーターとウンピョウへの人工授精の取り組みは、残念ながら成功には至りませんでした。今後の繁殖技術の発展に大いに期待が持てます。野毛山動物園が高齢で繁殖に寄与しない動物をきちんと終生飼育し、一方でズーラシアが積極的に繁殖に取り組む、このような役割を市内各園で分担できるのは、今後動物福祉が重要視される上で非常に意味があることです。

一方、基本的な作業ミスによる動物の逸走が複数回発生し、また、確認不足により借り受け動物を所有動物と誤解し、誤って他園に貸し出すなどのミスが発生していました。動物の適正な管理は財産の管理にもつながり、貸出ミスは関係園との信頼関係に関わってきます。改めて基本作業や動物の管理方法を複数人で確認するなど組織として再発防止を強く求めます。

2 調査・研究に対する取組

繁殖センターや大学などの研究機関と連携し、栄養・繁殖生理、獣医学、比較認知など様々な分野において研究を行い、発表をしていました。特に30年度は野毛山動物園における歴史的資料の分析といった人文科学的な研究や企業との連携による味覚センサーを用いた動物の嗜好性に関する研究、教育プログラムの評価を新たな評価指標（気持ち温度計）にて実施した研究などは、これまでにない新たな研究分野であり評価できます。今後の研究の発展に期待します。

3 環境教育に対する取組

全体として学校等の団体に30種の教育プログラムを実施するとともに目標（3件）を上回る5件について、内容や回数の改善を進めていました。また、商業施設での夏休みの宿題をテーマとしたイベントや市民団体との連携による普及活動を積極的に進めていました。

4 利用者サービスの向上及び利用者増に向けた取組

新規イベントやスマホアプリ導入による来園者サービス向上などの取組、金沢動物園における夜間開園時のプロジェクトマップなど利用者サービスの向上に対する取組は評価できます。天候等の外的影響を強く受けることも想定し、来園者増に向けた長期的かつ具体的な計画を示した上で、効果的な事業実施を求めます。

5 人材育成に対する取組

他園の研修を配信する取組みや先輩職員による研修の実施については評価できます。引き続き、今後の動物園運営の核となる人材を育成するための体系的な研修計画を策定・実施・評価することを求めます。

6 事業効果を高める取組

公益の実現を達成するため今まで以上に指定管理者経営陣のリーダーシップの発揮を求めます。計画→実施→評価のマネジメント・システムについて、効果的に機能させることを今まで以上に期待します。また、戦略的な組織体制のもと3動物園が有機的に連携した動物園運営の効果を示すことを期待します。